

2025年日中友好協会

岡山支部総会が行われました。

真田紀子

1051

2025/8/1



7月27日、日曜日の10時から、岡西公民館にて標記の会が開催されました。

当日の参加者は12人でした。

司会は理事の田中栄子さんをお願いし、5分遅れで始まりました。まず開会のあいさつとして、支部長の私から今日のご足労に謝意を表し、今後日中友好運動にご協力いただけるようお願いをしました。

来賓として華僑華人総会の劉勝徳会長があいさつにたれました。ご自身の出身県島根県のことに触れられ、日中友好運動の果たす役割を高く評価されていました。

次いで、2025年総会議案書にそつて担当理事が説明をしました。会員数は増えていませんが、各文化活動は着実に成果をあげています。

太極拳の活動Aでは受講生が増えていきます。同じく太極拳の活動Bでも少しずつ活動の場が広がっています。

中国語講座の活動では、初級クラスが半年間活動をしました。今後も続けて行けそうです。

理事会のある第3日曜の午後2時から取り組んでいる「中国文化に親しむ会」を12か月続けています。その中でも特に参加者が多かったのが2月の春節餃子パーティーです。来年2月にも取り組むことを確認しています。

百科検定の取り組みでは、今年から初めて倉敷会場が開設されました。

帰国者との交流及び自立支援のための活動では、日本語教室の現状が貝吹さんから報告されました。講師、受講生とも少しずつ減少しています。

第17回中国帰国者問題写真と資料展では、「岡山県下最大の柳樹河開拓団」についての展示でした。

小規模多機能ホーム「いほり」の現状を井堀ご夫妻が報告してくれました。近隣の日本人も参加するなど、様々なイベントに取り組んでいらつしやいます。

平和をつくり出す活動では、例年通り、表町に折鶴を3本飾り付けました。

不再戦の活動では、7月7日の盧溝橋事件、9月18日の柳条湖事件のチラシを天満屋アリス前広場で配布しました。

母親運動では、稲葉理事から津山での岡山県母親大会で参加した「荻田アサノ生家・洋楽資料館」訪問について報告がありました。

次いで、2024年度決算報告が行われ、木村さんからの監査報告書を読み上げました。

2025年度の活動のすすめ方を、

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhongyouhao.jinaa.net/>
 メールアドレス
 nicchukayama@yahoo.co.jp



私から報告し、財政・事業計画の中のカレンダー販売目標を120部に変更させていただきました。

2025年度予算案を河井さんから説明しました。ここで質問ができました。“支出に百科検定があるのに、収入にないのはおかしいのでは？”その通りです、うっかりしていました。訂正してください。

ここまでで、まとめて拍手で承認していただきました。
 2025年度の新役員を発表しましたが、印刷していなかったため、ここで発表させていただきます。

理事長・河合伸士、支部長・事務局長兼務・真田紀子、理事・青木正美、稲葉泰子、井堀紅霞、井堀風才、小川涼子、貝吹佳代子、曾田和子、田中栄子、以上10人です。

ここで新たな理事を探したいという話を出したところ、桑山哲郎さんというということになり、ご本人も了承されました。合計11人になりました。

今後の検討課題として、理事会の開催について、夜にオンラインで行えば若い人も加わることができるという意見ができました。考えもしなかった案なので虚を突かれたような気分です。何とか若い人に声掛けできるように頑張ります。

第17回中国百科検定を受験する

7問、ビミョーなのがあった。うち2問はたぶん正解だと思う。2問は勉強中に見た記憶だけがある、答えはわからない。3問はもう「知らんがな！」となるタイプのやつだ。

合格ラインにはヨユーで達している。満点は無理だな、こりや。

7月5日、第17回中国百科検定が倉敷の天満屋6階にある男女共同参画センターの第3会議室であった。受験者は2人。3級が1人、2級が1人。どちらも過去に今回受検した級で合格をもらっている。そして監督官が3人。もともと予定されていた倉敷支部の2人+たまたま予定してた事が延期になって、こちらに付いてきた岡山支部の1人だ。

当日受検申し込みが可能だったら、受験者増えたのにな！問題とか余ってるんだし、なんとかならんもんかなあ……。

倉敷会場は今回初めて設けられた。今までの夏の検定は、米子まで泊りがけで行っていたので、ずいぶん楽になった。問題は倉敷支部からの受験者が1人もいないことだ。

冬は岡山会場なので、受験者がたくさん増えたらいいなあと思う。

小川涼子

柳樹河開拓団の逃避行の学習会

7月20日岡西公民館で、8月5日から10日まで中国東北地方への旅の事前学習会が、近現代史研究者・青木康嘉さんの講師であった。柳樹河開拓団は岡山県下単独で513名という規模であった。(龍爪開拓団は1000名を超す規模だったが、岡山県人は229名だった。)出身地は井原市芳井町明治村と高梁市川上町だった。1939年に先遣隊が、1940年に本隊が入植した。1945年3月ごろまで岡山県から町村へ圧力をかけ送り出しをしていた。そのころは本土爆撃がはじまり敗戦が濃厚な様子なりに送り出していた。

開拓団の男達は召集令状で軍隊にとられて敗戦でシベリア送りになった。残った者達は女と子供たち、ソ連の参戦で略奪と暴行にあう。そんな中で引き揚げ中に子供たち、年寄りの多くが亡くなった。やっと葫蘆島から船に乗り博多港に入港した。

約20万6千人が満州地区に遺骨が残る。「開拓団員も日本軍国主義の犠牲者」と周恩来は言ったという。

河井伸士

常州への旅⑩

真田紀子

写真家は二人の位置や、家族の位置関係など、あれこれと直して写真を撮りまくっていました。もう一人アシスタントの女性がいたのですが、彼女が花嫁のメイクを担当した人のようです。

胡さんの最後の仕事は、靴を彼女の足に履かせることでした。その間にもご家族や友人たちとの写真も撮ります。大忙しです。

その後、部屋からお兄さんの背中におんぶされて、ホテルを出てゆきます。ホテルの前の車(写真1)に乗り込み、胡さんの家に向かうようです。時間は9時ごろです。

いよいよ披露宴が始まるのが11時ごろからです。三々五々と人々が集まってきました。参加者の服装は黒色でなければなんでも良いようです。11時50分ごろに二人が登場します。樊艶の衣装がウェディングドレスになっています。(写真2)

この会も仕切るのはプロの司会者です。大



樊艶の長兄と義姉さん



きな袋一杯にぬいぐるみを用意していて、沢山いる子供たちに配ります。

私たちの席は舞台の一番前のいい席ですので、司会者がぬいぐるみを配ってくれます。でもいただくたびに、やってくる子供たちに渡してあげます。

もちろん料理も色々出てきます。ビールを飲みながらいただきます。そしてカラオケタイムになりました。次々と歌っていきます。そうすると私たちにも回ってきます。私が歌える唄でこの場にふさわしい曲は松山千春の「乾杯」しか知りませんから、選曲したところ、中国語の歌詞が出るバージョンがありました。頑張りました。

次回の新聞発送作業は
8月12日(火)午前10時半
から
民主会館1階で行います。
前回お手伝いくださった方
です。

河井
伸士
真田
紀子